



# 職員の意識改革は

## 答 幹部会などで意識づけを

問 片岡政徳

職員の意識調査で、仕事に対し、挑戦する意欲、厳しさ、責任感、問題意識、政策形成能力の意識、姿勢は七割は持っている結果が出ている。

羽<sup>は</sup>羽<sup>は</sup>市での議長会研修で、職員には、「必要とする」、「いては困る」、「いてもいなくても良い」タイプがあり、本人の意識改革次第であったが、町長の考えは。

お茶など農産物のブランド化、オーナー制度の企画を職員が行い、農家と共に実践し、精通した職員の育成は。職員の地域活動への積極的参加は。

自然学園は東日本被災者支援に、一時的に生徒の受け入れを発信しているがそれに対し、町の対応は。

答 町長

資質・能力の向上は、昇級時にこうち人づくり広域連合の研修で。問題意識・責任感、訓示・幹部会などで意識づけを。専門職は、習得に時間がかかり、業務のマンネリ、後進育成の停滞、癒着などと、総合支所方式では、職員不足で難しい。県、農協、森林組合の協力で問題点の解決を。

町内活動を職員が周知し、自発的な参加を促す情報を提供し、地域活動を。

被災者の受け入れは、自然学園が情報を発信しているが、町も町営住宅などで支援を考えている。

問 片岡

専門職を置けば、責任を持ち、物事が具体的に進むと考えるが。

答 町長

行政の多様化、複雑化で、専門的な知識を持つ人材の育成は必要と考え、プロジェクトチームを作り、勉強している。課題に対応できる職員を、研修で育てる。

答 竹本企画課長

ブランド化は、県の産振事業を活用し、仁淀川流域茶として販売を促進、統一感を持つものを作る。

# 活動状況は

## 答 野菜の集出荷を具体的に

問 片岡

農業、林業のプロジェクトチーム、地域担当職員制度の活動状況は。

答 町長

フードプランでの町内産物の利用と、集出荷システムの構築、給食センターへ野菜の集出荷を具体的に検討。

谷沿の間伐を実施する。水源林モデル事業を検討。

地域担当は全職員で、年に2回地域を訪問し把握、「町民の声カード」をまとめ、担当課に報告している。

問 片岡

道路、河川沿の間伐は。職員も住民の一人として、一日地域で過ごしては。

答 大野産業建設課長

主な河川や、集落道沿も間伐の補助がある、利用を。

答 町長

集落維持が困難な住民の意見を聞き、どこまで手助けが可能か、班長会で検討し取り組む。



都 太鼓踊り

# 軽四で地域巡りは

答 気持ちはある

問 片岡

町長専用車の運転手は、近隣町村では専任か、職員などの運転か、状況は。

黒塗りの車でなく、軽四で自ら運転し、地域を巡り住民の声を聞いては。

答 岡崎総務課長

いの町は職員、津野町、樺原町は専任、佐川町、越知町、日高村は職員。

答 町長

気持ちはあるが、会議や行事などが多く行けないが、各地域のイベントなどできる限り出向いている。

# パラグライダーの跡地を

答 積極的に考える



問 西森常晴

佐川高校ソフトボール部が、県体で優勝した。キャプテンの吉村未来君は仁淀中、エースの竹本流星君は池川中の卒業生だ。

「苦がなければ、楽はない。」

夏の全国大会（秋田県）に出場する、同校に町の全面的な支援を要望する。旧吾川村のシンボル、「中津明神山」のパラグライダー施設だが、ブームが去り、利用者が少なくなった今後、どう活用していくか。

答 片岡副町長

公園としてどう活用できるか、ソフト面での活用と積極的に考えていきたい。

問 西森

今、「しもなの郷」が輝いている。中津明神山のふもととは農場公園にどうか。

答 竹本企画課長

地域おこし協力隊に、自然を生かした地域間交流を得意分野とする者がいる。知恵を出してもらって、都会との交流などを模索したい。



佐川高校 ソフトボール部



# 中学再編

答 見極める

問 西森

吾川中学校は、耐震診断で危険の診断が下されている。

合併特例債が切れる、5年後の中学一年生は28人だ。

仁淀中、池川中2校の再編を急ぐべきだ。来年度実施は無理か。

答 大石町長

見極めていく必要があると思う。

問 西森

中学再編委員会の意見は、仁淀中、池川中の2校で固まりつつある。

悲惨な災害に遭う前に、一日も早く、子どもを安全な場所に移してもらいたい。

答 町長

再編委員の意見を尊重していきたい。



# ソニアは解散すべき

答 地域のために生かしたい

問 岡田良成

4月22日の議員協議会の説明を。

答 町長

県森連、仁淀川森林組合から、ソニアが抱える負債等の状況、今後の維持、経費の大きさを考慮すると、現状での経営は困難。

その後、愛媛林産商事(株)、マツシマ林工(株)、日本製紙木材(株)の民間企業に、ソニアの経営移譲についての検討を要請。参入企業が一定の株を取得したうえで、3町が保有している株を、議決権のない株式に変更、経営権を委譲する確認、結論が出てないが、従業員には、6月末に解雇通知。

問 岡田

町長から、この話が不作に終われば解散だと話した経過がある。

ソニアという名前を、相手に貸して運営するが、第三セクターではないと町長が発言したが、間違いがあれば発言を。国、県に対し商法的に詐欺行為につながるのでは。

答 町長

一度は議会も、解散議決をしており、解散すべき。地域のために生かしたい思いは、現在も変わっていないが、3町の合意が得られず、方法がなければ、清算をしなければならぬ。



大崎小学校付近

# 統合は無理か

答 貴重な提案

問 岡田

小・中学校の生徒数、現在の状況、耐震工事が必要な学校、再編委員会の経緯を。

西森議員から、再編は、仁淀・池川に中学校2校の提案があり、委員会の一部では、ある程度すすんでいるのでは。

中学生の総数は132人、小学1年生入学児童24人。将来、生徒、児童数は減少し、集団生活、良い教育環境ができるのか。

答 大野教育長

大崎小49人(2、3年生複式)、名野川小18人(完全複式)、池川小54人(完全複式)、別府小48人(2、3年生、4、5年生複式)、小学児童総数220人。吾川中48人、仁淀中59人。

人、池川中25人、総数132人。

耐震工事、小学校すべて完了。吾川中、耐震工事費約3億円、池川中、工事費約1億円。

再編検討委員会4回行う。問題点の議論を、集約に至っていない。

問 岡田

中学校を2校にするならば、小中一貫校にすべき。

池川中に1億円かけて耐震工事をするなら、小学校の隣接地(幼稚園)を撤去し、将来を考え建設すべき。

答 教育長

小中一貫校、大変貴重なご提案を頂きました。幼稚園の跡の話があつたが、狭い感もあり、可能性も含めて検討する。



長者小学校 (S56年 築)



大崎小学校 (S53年 築)



別府小学校 (S58年 築)



名野川小学校 (S47年 築)



池川小学校 (H9年 築)

# 新庁舎は大崎へ

答 意見を参考に

問 岡田

耐震診断が必要な、町内建物は、耐震診断が、早急な課題である。耐震に必要な建物を整理し、見直しを回り、取り組むべき。

小・中学校2校なら、大崎に新庁舎を建設、診療所は中学校跡地。

答 岡崎総務課長

大崎地区は、本庁・診療所・幼稚園9件、池川地区は、町営住宅他6件、仁淀地区は、仁淀総合支所他9件。

答 町長

耐震化施設は、必要性の建物の整理をして、見直し、取り組む。

本庁舎の問題は、プロジェクトチームを作り、意見を参考にし考える。